

海外の話題

エンターテインメント、マカオベネチアン (澳門威尼斯人度假村酒店)

農林中央金庫 香港駐在員事務所長 松尾 章

今回は、香港から高速フェリーで1時間、最近観光地として香港以上に注目を集めるマカオについて紹介したい。まずマカオというと皆さんの思い浮かべるイメージは何だろうか？最初に思い浮かぶことはやはり世界遺産マカオではないかと思う。正面の壁しか残っていない「セントポール寺院」がよくマカオ観光広告1面によくでてくる。マカオは半島と2つの島からなるが、半島側が町全体世界遺産となっている。あとは、やはりカジノでしょうか。その他ややマニアックになるが、毎年11月中旬恒例の「マカオグランプリ」(AセナやMシューマッハもここで優勝してF1へ)、世界一高いバンジージャンプのあるマカオタワー、ドッグレースなどですかね・・・。

マカオは1500年代前半、ポルトガル人がキリスト教布教目的で到達したところからその歴史が始まるが、清朝時代香港同様植民地化され、ポルトガルは永久占有権を清朝から奪取した。「マカオ」という呼称は、半島南部にある「マコウ(媽閣)廟」の名前が由来らしい。1970年代からのポルトガル政府との返還交渉を経て1999年12月中国に返還され、高度な自治権を持つ中国の特別行政区となった。

最近マカオの発展を象徴するのは「カジノ」産業だ。マカオのカジノ産業はGDPの4割を占める最大の産業となっている。カジノは2002年開放までは地元カジノ王スタンレーホー一族が独占していたが、米国系、香港系等のカジノ・娯楽産業が進出し、現在は6社がカジノ経営権を有する。2006年には売上規模で米国ラスベガスを抜いて世界一のカジノ市場(約8,400億円)となり、07年は前年比40%超の1兆2,000億円へと急拡大した。この急拡大の主な背景に米国系サンズ(L.V.Sands)経営の「ベネチアンマカオリゾートホテル」の開業がある。これと連動して観光客は2,700万人(前年比22.8%増)となり、05年からわずか2年で5割増しとなった。今年は3,000万人突破確実と地元では言われている(ちなみに日本人観光客は昨年30万人突破、前年比30%増加したようだ。直近2月は前期比78%増の1.6万人)。昨年のGDP成長率も前年比27.3%(1人当たりGDPでは、アジア首位(世界ランクでも20位))と好調を維持している。ただ、問題点も多い。なにせ人口52万人、建設ラッシュとカジノブームで働き手が慢性的に不足している。また、マカオに行ってもまず苦勞するのが「足」。とにかくタクシーが拾えない。観光ブームとも相まって交通インフラ整備が喫緊の課題だと思う。なお、カジノは独自に無料バスをフェリー乗り場から循環運行しているので、これをうまく乗り継げば一通りカジノとともに観光地を回れる。

次に、マカオベネチアンについて。ベネチアンホテルは、昨年8月28日部分開業(エリア内にフォーシーズンズホテルが出来てグランドオープン)、マカオのタイパ島とコロアネ島の間の埋立地(コタイ地区)に米国サンズが24億ドル(約2,500億円)投じた世界でも最大級のホテル&リゾー

ト施設だ。施設はホテル、カジノ&ショッピングモール、コンベンションセンターの3つのエリアで構成され、カジノはアジア最大だ。また、コンベンションセンターは100万平方フィート：約9.3万㎡の広さを誇り、香港コンベンションセンターの脅威となりつつある。ホテル周辺はまだ開発途上で、ホテル群が林立する姿はまだ見られないが、計画ではこの周りにフォーシーズンズのほか、ラッフルズ、シャングリラ、コンラッドなど世界の5つ星ホテルができるということだ（ちなみに昨年末でホテル客室数は16,148室だが、今後2年間で21,033室増える。昨年末の2.3倍へ）。

香港からのマカオへのフェリーは、昨年末、ホー一族ともう1社で運営してきた高速フェリーにベネチアン経営のフェリー（COTAI Jet）が加わった。ブルーのフェリーで値段は他社とほぼ同じだが、違うのはマカオの到着桟橋が違うこと。当社フェリーはタイパ島にあるマカオ国際空港近くに乗入れし、ベネチアンからも近い（桟橋からは無料のシャトルバスで5分）。帰りは時間帯限定ながら無料で香港まで帰れる美味しいサービス付である。ホテルは5つ星でありながら、チェックイン、チェックアウトは極めて貧弱。箱物に質が追いついていない。また意外と重要なのが客室までの距離感、ロビーから相当程度歩かされるのには、いささか閉口する。当ホテルの姿はホームページ等で見ても巨大だが、実物は本当に圧倒される。1階はカジノ場（4エリア：帝王殿、赤龍殿、鳳凰殿、金鱗殿で概ね東京ドーム並み）とお酒を飲みながら見れるショーステージ、2階がショッピングモール（約350店舗）。その上がホテルとなる。カジノはすごい熱気があり、タバコの煙で決していいとは言えない環境。またカジノの中心部あたりに中華レストランもある。2階に行くとショッピング街になるが、香港のモール同様、世界のブランド店が一通り揃っている。カジノで儲けて高級ブランドを買うという仕組み。またここにはなんと運河が3ヶ所ある。しかも運河には名前に由来するように「ゴンドラ」が浮かんで営業している。ベネチア同様、船頭さんが歌を披露している。驚いたのはこれだけでなく、イタリア式広場（なんとなくサンマルコ広場風）もあってそこの天井は青空吹き抜けのようなペイントが施されている。リゾートというだけあって内装もすごい！とにかく圧倒される施設だ。

最近、香港珠海マカオ大橋の建設も決まり、新交通システムの建設、高級ホテル開業（サービスアパート併設）などインフラ整備も進むことからマカオの観光産業はまだまだ伸びそうだ。ちなみに日本との直行便も関空のみだったが、この7月から成田便も就航予定となっている。変貌するマカオへの日本人旅行者も増えることだろう。



ホテルの中に「ベネチアン広場」！！